

## 2016年3月期：上期決算説明会 主な質疑応答

日時：2015年11月10日(火) 13:00～14:30

場所：WTCカンファレンスセンター

出席者：	代表取締役	社長	清水 洋史
	取締役専務執行役員	CSO	久野 貢
	取締役専務執行役員	海外Division	吉田 友行
	取締役常務執行役員	不二製油(株)代表取締役	木本 実
	取締役執行役員	CFO	松本 智樹

### 【ハラルドに関して】

**Q. ハラルド社に関して、のれん償却前営業利益の今期および来期見通しを教えてください。**

久野 A. 今期見通しは、説明会P27の地域別・セグメント数値の資料で、製菓・製パン素材／米州を参照してほしい。業績予想上は、のれん償却後、一時費用を含めて営業利益3億円をみていたが、それが▲5億円となる。要因として2つある。

1つには、ブラジル経済が急速に悪化したことによるチョコレートマーケットの縮小にある。業界発表の1-9月は、数量▲5%減、年間では▲6-7%であるものの、ハラルドは前期から数量増加見込みであるが伸びは減速した。

2つめにレアル安がある。

想定は1\$=2.86レアルだったが、9月末には史上最安値の4.24まで進み、現在3.8～4.0のレンジで推移している。この急激な変化に適切に対応できなかった。

また、ブラジルは金利が高い国であり、為替の先物予約をすると非常に悪いレートとなるリスクがあった。

・今期営業利益の減少要因に関して

レアル安によるコストアップを値上げでカバーできず、業績予想に比べて▲8億円マイナスの見通しである。

・値上げに関して

10月に値上げを実施した。実施幅は、平均で12%程度を見込んでいる。

・来期状況と施策に関して

来期は、レアル安の落ち着き、原料コストの低減に加えグループ間シナジーの発揮により、業績は回復すると見込んでいる。

2016年の営業利益は、予算策定前ではあるが、のれん償却前で50Mレアルを予定する。しかしレアルは対円でも大幅に下落している関係から、日本円換算で目減りする。当初想定していたレートであれば円換算後で20億円となるが、現在の為替水準を適用すると15億～16億円とみている。

また、公定歩合が1年前の11%から14.25%となり、市中金利は16～17%程度になる。

資本政策を実施し、為替リスクおよび借入金を減らしていく。

**Q. ハラルドの2016年度の営業利益予想が今期の8億から16億円と倍になることにつき、要因別に増益値を教えてください。**

久野 A. 内訳までは無いが、値上げ、コスト削減・合理化、原料購入コストが減少となる。為替にもよるが、この合計によるものである。

**Q. 競争に対して今後どのような手を打っていくか。**

久野 A. ハラルドのチョコレートはCBSを使用したものを主としているが、これからはCBEを使ったよりピュアチョコレートに近いコンパウンドチョコレートを作り、競争に打ち勝っていく。

## 【TPPに関して】

### Q. TPPと不二の関係において中・長期的な展望を教えてください。

吉田

- A. 現在シンガポールの子会社から日本へ輸入している調製品事業はコスト競争力が増すと考えている。  
また、弊社が日本で生産している油脂および製菓・製パン素材の製品が外国から輸入される可能性はあるが、弊社も海外に拠点を持っており、供給体制は他社より整っている。  
なお、海外ではメキシコの輸入税がなくなるため、パーム油等について海外子会社から輸出のチャンスと考える。

## 【今期の業績に関して】

### Q. 日本チョコレートは、来年も強い伸びの持続力があるか。

木本

- A. お客様を支援してお客様とともに伸びていくのが業務用の商売であり、業界が好調であるため来年も好調を維持するとみている。  
関東の新工場も生産を開始し、国内のチョコレート販売数量はまだ伸びると考えている。

### Q. 海外チョコレート：アジアが伸びていない。これからどうしていくのか。

清水

- 中国は儉約令の影響が残っていることが、チョコレート販売が増えない理由であった。  
ただし、これもいつまでも増えないというわけではないと見ており、中国にも期待している。  
不二はチョコレートに強みをもつ会社であり、アジア諸国への拡販を目指している。

### Q. 日本における7-9月実績は製菓製パンで4億、大豆たん白で3億増益だが、油脂減益の要因は。また、日本の下期の動向を教えてください。

木本

- A. 油脂の減益は、老朽化対策を施し、想定通りの設備投資を行ったことによる。  
チョコレートは、下期も好調、クリームも洋菓子用は先が厳しいも、外食用の取り組みで回復を見込む。  
トーラクは、下期も順調に推移していく。  
大豆たん白は、上期同様、国内の堅調および大豆多糖類の中国向け輸出の好調が下期も続く。